

JAST、学校訪問カウンセラーなどの担当者増員を！

学校訪問カウンセラーの相談件数は2251件、学校問題解決支援プロジェクトチーム（JAST）の相談件数も250件にもなっている。これでは過重負担となっているのではないかと11日の文教経済常任委員会、日本共産党議員団の上野公悦議員の発言が重く響きました。

同議員は昨年度決算の審査のなかで児童虐待やいじめが深刻化するなか、学校訪問カウンセラーなどの取

扱件数が増え、指摘、教育相談活動にあたる職員を増やすよう強く求めました。

これに対して親跡学校教育課長は、「ぎりぎりのところでやっている。一人当たりかかえている件数も多いがチームでみている。どこまで継続してできるか努力している」と厳しい現状を語りました。野澤教育長も、「いろいろな職を含め足りない状態にある。困っているお子さん

をどう支えていくか、お金の使い方の大転換の時期に来ている」とのべました。来年度予算がどうなっていくか注目です。



除雪費助成、世帯も金額も大幅増に

昨年度、親族要件の廃止や除雪対象を広げた上越市の要援護世帯除雪費助成事業がどうなったか。5日の厚生常任委員会の中で明らかにされました。

見直しの結果、助成世帯数は前年度よりも1089世帯増えて2262世帯に、助成金額も4118万円増えて7018万円になりました。下表は昨年度、要援護世帯除雪費助成事業の地区別

の助成状況です。

委員会の審査では、「見直しによって申請がしやすくなった」などの評価の声とともに、「多雪地域と「その他地域」の線引きの見直しや助成限度額の見直しなどを求める発言が相次ぎました。

横田高齢者支援課長は「限度額については、今後の利用状況を見ながら検討する」と答えました。

要援護世帯除雪費助成事業の地区別助成状況（2017年度）

区分	助成世帯数（世帯）		1世帯あたりの平均利用額（円） （ ）内は上限額に対する利用割合（%）	
	多雪区域	その他区域	多雪区域	その他区域
合併前15区	13	32	41,538 (63.3)	30,219 (73.7)
安塚区	70	45	48,746 (74.3)	33,097 (80.7)
浦川原区	13	69	48,146 (73.4)	28,699 (70.0)
大島区	100		45,897 (70.0)	
牧区	128		45,303 (69.1)	
柿崎区	7	110	51,397 (78.2)	24,177 (59.0)
大潟区		64		19,096 (46.6)
頸城区		93		28,555 (69.6)
吉川区	33	93	54,114 (82.5)	29,974 (73.1)
中郷区	110		44,782 (68.3)	
板倉区	50	77	51,184 (78.0)	27,343 (66.7)
清里区	16	31	46,011 (70.1)	24,358 (59.4)
三和区		97		28,530 (69.6)
名立区	32	49	49,776 (75.9)	32,602 (79.5)
合計	581	1,681	46,857 (71.4)	25,557 (62.3)

党議員団の一般質問の予定 (3人とも25日に登壇の予定)



19番目 上野公悦議員

- ①幼稚園や小中学校、生活保護利用者へのエアコン設置
- ②新生児聴覚スクリーニング検査への助成
- ③敬老祝賀事業について

20番目 橋本正幸議員

- ①生活保護基準見直しの影響と対策について
- ②農地災害復旧など農業政策

21番目 橋爪法一議員

- ①災害対策について
- ②第5次エネルギー基本計画、原子力発電所問題などについて

※上の写真は昨年9月議会の時のもの。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.603 2018年9月16日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
 先 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)